

基盤教育集中講義

平成26年度

フィールドワーク ハンドブック



共生の森もがみ



自然、環境、文化、歴史、ひと
五感を研ぎ澄ませて
「もがみ」を感じる



山形大学エリアキャンパスもがみ

目次

Contents

授業開設のメッセージ	02
授業計画(シラバス)	03
フィールドワークプログラムマップ	05

前期 07

日本一の山車パレード・新庄まつり ～山車の舞台裏を体験!～	08
「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界	09
環境保全活動を通じた自然との共生	10
地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	11
目覚めよ!谷口銀山	12
森と人との共存を考える I ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	13
最上の農業と観光活力に触れよう	14
里地里山の再生 I	15
地域から元気と力! 差首鍋廃校活用プロジェクト	16
子ども達の自然体験活動支援講座 1	17
美しいむら大蔵村の自然・文化・人にみれる	18
鮭川村の伝統芸能鮭川歌舞伎と里山体験	19
戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ	20
山菜料理と米作り	21
夏野菜つくりと郷土料理	22

後期 23

まちの図書館を舞台にイベントプロデュース ～図書館まつりをジャック!?する～	24
体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」	25
七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	26
山間地の文化を掘り起こそう!	27
森と人の共存を考える II ～山間地の文化を探り地域振興へ～	28
地域の活力に触れよう	29
里地里山の再生 II	30
子ども達の自然体験活動支援講座 2	31
芋煮 & またぎ文化～修験の道探訪～	32
冬の里山体験&創作太鼓	33

五感を研ぎ澄ませて

「もがみ」を感じてほしい

山形県最上広域圏は南西に最上川が流れ、大部分が山岳・丘陵地帯の自然豊かで、市町村毎に独自の文化を有する農山村地帯ですが、一方で8市町村のうち6町村が「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域に指定されています。大学や短期大学などの高等教育機関が一つもない最上広域圏では、長らく大学誘致を悲願としてきました。この要望に応える形で、平成17年4月、山形大学「エリアキャンパスもがみ」は発足しました。

この科目は、地域固有の本物の自然や地域に根差した歴史・文化を活用して、『環境』と『人』とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生諸君に直に感じてもらう科目として企画されました。教育研究施設がないハンディキャップを逆手に取り、個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業は、他に類を見ない授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の各市町村が、地域の特色を表す講師を提供するとともに、授業実施の全般を担当する形で行われることも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感をとぎすませば、宝物はすぐ近くにあります。最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。

山形大学エリアキャンパスもがみキャンパス長

小白川キャンパス長 北川 忠明

授業計画 (シラバス)

授業科目名:

前期 フィールドワーク-共生の森がみQ (地域学)

後期 フィールドワーク-共生の森がみR (地域学)

担当教員:北川 志明(KITAGAWA Tadaaki)

担当教員の所属:山形大学 人文学部 法経政策学

開講学年:1年,2年,3年,4年 開講学期:前期・後期

単位数:2単位 開講形態:演習

授業概要

●テーマ

自然豊かな最上広域圏でのフィールドワークを通して、地域、文化、歴史、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと一緒に考えます。この科目は、最上広域圏の8市町村そのものをキャンパスとして活動を展開する授業科目として創出されました。この地域を舞台に、「達人講師」の指導の下、8市町村選りすぐりのプログラムが展開されます。もがみを知ることは、山形を知り、日本を知り、ひいては世界を知ることにつながっていきます。山形大学に来て良かったと思える授業です。

●目標

「課題発見能力」、「課題探求能力」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」、「行動力」、「社会性」の基礎的な力を身につけることを目標とします。

●キーワード

エコキャンパス、地域活性化、住民との交流、実地体験、プレゼン能力の向上

科目の位置づけ

教養科目における「山形に学ぶ」という領域の科目です。基礎教育の基本姿勢(人間力を育成し、自律した個人として社会における責任を果たす態度・志向性を身につける)を最上地方というフィールドで直接的に身につけることができます。

授業計画

●授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラムから1つを選択して受講します。各プログラムは、基本的に1泊2日のフィールドワーク(以下「FW」)×2回で構成されます。各回のFW終了後に「活動の振り返り(レポート)」、2回目のFW終了後に「私はもがみで考えた! (レポート)」を提出してもらいます。また、授業終了後の「活動報告会」で発表してもらいます。

- ① 日本一の山車パレード・新庄まつり～山車の舞台裏を体験!～(新庄市)
- ② 「作陶に挑戦!」新庄東山焼の世界(新庄市)
- ③ 環境保全活動を通した自然との共生(新庄市)
- ④ 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る(新庄市)
- ⑤ 目覚めよ! 谷口銀山(金山町)
- ⑥ 森と人の共存を考えるⅠ～山間地の歴史を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑦ 最上の農業と観光活気に触れよう(最上町)
- ⑧ 里地里山の再生Ⅰ(舟形町)
- ⑨ 地域から元気と力を! 差首鍋廃校活用プロジェクト(真室川町)
- ⑩ 子ども達の自然体験活動支援講座Ⅰ(真室川町)
- ⑪ 美しいむら大蔵村の自然・文化・人にもれる(大蔵村)
- ⑫ 鮭川村の伝統芸能鮭川歌舞伎と里山体験(鮭川村)
- ⑬ 戸沢村の超元気印! 幸齢者集団の生き様に学ぶ(戸沢村)
- ⑭ 山菜料理と米作り(戸沢村)
- ⑮ 夏野菜つくりと郷土料理(戸沢村)

前期

後期

- ① まちの図書館を舞台にイベントプロデューサー～図書館まつりをジャック!?～(新庄市)
- ② 体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦!」(新庄市)
- ③ 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る(新庄市)
- ④ 山間地の文化を掘り起こそう!(金山町)
- ⑤ 森と人の共存を考えるⅡ～山間地の文化を探り地域振興へ～(金山町)
- ⑥ 地域の活気に触れよう(最上町)
- ⑦ 里地里山の再生Ⅱ(舟形町)
- ⑧ 子ども達の自然体験活動支援講座Ⅱ(真室川町)
- ⑨ 芋煮&またぎ文化～修験の道探訪～(戸沢村)
- ⑩ 冬の里山体験&創作太鼓(戸沢村)

授業日程

① 各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査

前期	4月14日(月) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室	後期	10月2日(木) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	----------------------------------

② オリエンテーション 班編制・顔合わせ・FWの心構えについて

前期	5月8日(木) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室	後期	10月16日(木) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室
----	---------------------------------	----	-----------------------------------

③ FWの実施(プログラムによって実施日程が異なります。6頁参照)

前期	5月17日(土)～8月3日(日)	後期	10月25日(土)～1月11日(日)
----	------------------	----	--------------------

④ 活動報告会

前期	7月25日(金) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室	後期	2月6日(金) 16:30～ 基礎教育2号館 221教室
----	----------------------------------	----	---------------------------------

学習の方法

▼受講のあり方

安全に気を配りながら、楽しんでFW活動に臨んでください。

▼授業時間外学習へのアドバイス

〈予習〉インターネットなどで事前下調べをして臨めば、FWが実りあるものになります。1回目の活動の前に事前学習を、2回目の活動の前に中間学習を行い、その成果をウェブクラスに書き込んでもらいます。

〈復習〉各FWの活動報告を丹念に取りまとめてください。その際は、時系列で整理して、自分の活動を記録する作業が必要です。専用のレポート用紙への記入とウェブクラスへの書き込みにより、提出してもらいます。

成績の評価

▼成績評価基準

この授業は、FWでの活動が基本です。事前学習や活動の振り返りを丁寧にまとめてください。毎回の活動報告で授業への参加意識を評価します。

▼方法

FW活動への参加	30%
講師の活動評価	40%
活動報告会での発表	20%
受講生相互評価	10%

テキスト・参考書

選択希望調査の際には入学時に配付する「フィールドワークハンドブック-共生の森がみQ」を、フィールドワーク活動の際には、「フィールドワークオリエンテーションで配付する『フィールドワークの手引き』、「フィールドワーク-共生の森がみしおり」を携帯してください。

その他

▼学生へのメッセージ

最上広域圏は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて(味わって)、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。大学から最上広域圏までは借り上げバスを利用し、最上広域圏内の移動は、各市町村で手配します。プログラムでは、宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。(詳細は、前期4月14日(月)、後期10月2日(木)の「各プログラムの紹介」の際に説明します。)

▼オフィス・アワー

オフィス・アワーはありませんが、この授業の運営に協力する小川川キャンパス事務部教務課の事務職員が窓口にあられます。(学生センター内エリアキャンパスもがみ事務局・小川川キャンパス事務部教務課:023-628-4707)

フィールドワークプログラムマップ



前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
① 日本一の山車・パレード・新庄まつり ～山車の舞台裏と体験！～	新庄市	7月19-20日	8月2-3日
② 「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界	新庄市	5月31-6月1日	7月19-20日
③ 環境保全活動を通じた自然との共生	新庄市	5月24-25日	6月28-29日
④ 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る	新庄市	6月14-15日	7月12-13日
⑤ 目覚めよ！谷口銀山	金山町	5月24-25日	7月19-20日
⑥ 森と人との共存を考えるⅠ ～山間地の歴史を探り地域振興へ～	金山町	6月14-15日	7月19-20日
⑦ 最上の農業と観光活気に触れよう	最上町	6月14-15日	6月21-22日
⑧ 里地里山の再生Ⅰ	舟形町	5月17-18日	5月31-6月1日
⑨ 地域から元気と力を！ 差首鍋廃校活用プロジェクト	真室川町	6月7-8日	7月12-13日
⑩ 子ども達の自然体験活動支援講座Ⅰ	真室川町	6月7-8日	7月12-13日
⑪ 美しいむら大蔵村の自然文化・人にふれる	大蔵村	5月31-6月1日	6月7-8日
⑫ 鮭川村の伝統芸能鮭川歌舞伎と里山体験	鮭川村	6月7-8日	7月12-13日
⑬ 戸沢村の超元氣印！ 幸齢者集団の生き様に学ぶ	戸沢村	5月31-6月1日	6月28-29日
⑭ 山菜料理と米作り	戸沢村	5月31-6月1日	6月28-29日
⑮ 夏野菜つくりと郷土料理	戸沢村	6月14-15日	7月26-27日



後期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
① まちの図書館と舞台にイベントプロデュース ～図書館まつりとジャック！？する～	新庄市	10月25-26日	11月1-2日
② 体験「ごまかしのない食品づくり」に挑戦！」	新庄市	10月25-26日	11月8-9日
③ 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る	新庄市	10月25-26日	1月10-11日
④ 山間地の文化を掘り起こそう！	金山町	10月25-26日	12月6-7日
⑤ 森と人との共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～	金山町	12月6-7日	1月10-11日
⑥ 地域の活力に触れよう	最上町	10月25-26日	11月1-2日
⑦ 里地里山の再生Ⅱ	舟形町	10月25-26日	11月22-23日
⑧ 子ども達の自然体験活動支援講座Ⅱ	真室川町	12月6-7日	1月10-11日
⑨ 芋煮&またぎ文化～修験の道探訪～	戸沢村	11月1-2日	11月22-23日
⑩ 冬の里山体験&創作太鼓	戸沢村	12月20-21日	1月10-11日



Fieldwork program map



前期



新庄市

日本一の山車パレード・新庄まつり ～山車の舞台裏を体験！～



目的・概要

「新庄まつり」は、毎年8月24日から26日までの3日間にわたって開催され、50万人の人出でにぎわう東北有数の祭りとして、また、東北の夏祭りをしめくくるにふさわしい伝統の祭りとして、脚光を浴びている。平成21年には、国重要無形民俗文化財にも指定され、さらに知名度は上昇している。そのまつりのメインを飾るのが豪華絢爛な山車(やたい)パレードである。本講義では、製作途中の山車や山車に乗る人形の製作過程など、山車の裏側まで体験してもらう。体験を通して、また、まつり本番を控え、街中がまつり一色となっている新庄市を体感し、地域の伝統を誇る「新庄まつり」の魅力や、大学生の視点で探してほしい。



1 回目の訪問

平成26年7月19日、20日

- 1 日目
1. ガイダンス
 2. 講義「映像で見る新庄まつり」
 3. 実技 「山車作り体験」

- 2 日目
1. 講義「野川家の人形と新庄まつり」
 2. 実技 「山車作り体験」

2 回目の訪問

平成26年8月2日、3日

- 1 日目
1. 実習「山車調査」
 2. 実技「山車作り体験」

- 2 日目
1. 講義「新庄まつり」
 2. 意見交換「新庄まつりの魅力」

講師・担当者

新庄山車連盟会長 伊東洋一
 新庄山車連盟副会長 川崎昭栄
 新庄山車連盟顧問 林 泰夫
 野川北山(山車人形師) 野川北山
 新庄山車連盟相談役 羽賀千尋

昨年の受講生の感想

人文学部 本間 愛奈
 私は今まで新庄まつりを知りませんでしたが、初日に歴史センターに飾られた巨大な山車を見てその迫力に圧倒されました。実際の山車作り体験では、高所によったり、ひたすら駒の塗装をしながら大変な作業だと思いましたが、地区ごとに協力して作成している世帯をみて、地域の繋がりが、絆を感じました。また、お雛子体験はメロディが複雑で大変でしたが、その簡単には習得できない難しさから、250年の歴史の重み、伝統を感じ、非常に貴重な体験となりました。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

前期

新庄市 「作陶に挑戦！」新庄東山焼の世界



目的・概要

1842年の開窯以来、5代にわたり受け継がれてきた新庄東山焼の伝統と芸術性あふれる焼き物の魅力を体験することができる。東山焼ならではの土や釉薬作り、焼き方等を6代目が分かりやすく解説する。ろくろ回し体験や自分の作った作品を記念に残すことができるのも本プログラムの魅力の一つである。

授業計画

1回目 1回目の訪問

平成26年5月31日、6月1日

- ① 1日目 1. 講義 焼き物の歴史
2. 山から粘土取り
3. 匠の実演：ろくろ回し→体験
- ② 2日目 1. 各地の有名な焼き物比較
2. 皿づくり実習
3. ろくろ回し体験②

2回目 2回目の訪問

平成26年7月19日、20日

- ① 1日目 1. 講義 釉薬の歴史
2. 釉薬調合体験
3. 匠の実演：ろくろ回し→体験
- ② 2日目 1. 本焼き作業：窯つめ&窯焚き
2. 活動総括

講師・担当者

新庄東山焼弥福庵 涌井正和

昨年の受講生の感想

地域教育文化学部
川サネ クライヤン

毎日紅茶を入れる青い色のカップを見ると、新庄市東山焼の体験を思い出す。東山焼を体験する前は毎日使っているカップ、お皿などの陶器の材料と作り方を全く意識しなかったということを感じた。日本に来て、様々な美しい焼き物を見ながら、その作り方が分からず、難しそうで、自分で作れるはずがないと思っていた。だが、東山の窯場へ行ってみて、この考え方が変わった。

初めの日、陶器を作るために窯場の向い側にある所から土を取り、その土から粘土を作った。その時、陶器の材料はどこにでもあり、自然なものであるということを知り、感動した。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 環境保全活動を通じた自然との共生



目的・概要

「川西町河川公園を愛する会」は、町内を流れる川の環境保全活動や河川公園の整備を継続しながら、地域住民の協働や交流が深まるようにと「水辺のコンサート」を開いている。会のみなさんと一緒に指首野川流域を視察し、環境保全活動やコンサート運営を実体験してもらおう。

授業計画

1回目 1回目の訪問

平成26年5月24日、25日

- ① 1日目 「河川公園を愛する会」活動概要
→指首野川源流体験→交流会
- ② 2日目 公園整備作業体験→水辺のコンサート準備、運営→振り返り活動

2回目 2回目の訪問

平成26年6月28日、29日

- ① 1日目 ・水辺探訪（湧水群 指首野川流域）
- ② 2日目 ・各自然環境保全活動
・意見交換会

講師・担当者

川西町河川公園を愛する会 会長 江口清治
地元講師 本澤充夫

昨年の受講生の感想

工学部 佐藤 七海

指首野川は小さい川ではあるが整備が行き届いたきれいな川で、また川岸を散歩している方や遊んでいる子供たちが多くいることから地域の方々に愛されている川だと思った。また、綱長靴で川に入り自然を直接体感したことや自然や環境のことをより身近に考えることができた。なかなか食べることのできない高級な山菜をいただいたことも有り、地域の方々に歓迎と期待をされていると感じた。水辺のコンサートを運営し直接お話を聞くなかで、地域のつながりを実感したことが大きな収穫であった。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 地域の資源を活かし山屋の魅力を探る



目的・概要

山屋地区を舞台に、登山やキャンプ場の整備、ログハウスでのピザ焼などを体験してもらい、また、薬師堂や観音菩薩などの歴史遺産を探索し、当地区のもつ豊かな自然や歴史を学んでもらう。そして、地域住民や子ども達との交流を通して、地域資源を活かした山屋地区の魅力を探ってもらう。

授業計画

1回目 訪問

平成26年6月14日、15日

- 1日目 奈蔵山登山→地域との交流
- 2日目 地域の宝探し→ログハウスでのピザ焼体験→振り返り活動

講師・担当者

山屋地区有志の会 会長 渡部竹三

昨年の受講生の感想

地域教育 文化学部 寺崎 珠里

山屋地区は、市街地近郊にありながら古くからの行事や文化が守り伝えられ、豊かな自然と温かい人々にとても惹かれていた。山屋地区の人々と交流して行くにつれて、地元の人々の人の良さを感じ、とても好感を持った。奈蔵山には、ゴミかたつ落ちていなくて地元の人々の地区を大切にしている気持ちが伝わった。私はこの活動の中で、人と交流する楽しさをとても実感した。そして、このような新しい人との出会いを大事にして、いろんなものを吸収し自分自身の人間の幅をどんどん広げていきたいと思った。本当に素晴らしい4日間だった。私にとって一生の思い出になった。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

金山町 目覚めよ！谷口銀山



目的・概要

【目的】往時の絵図を基に、散策道の整備や坑道の復元作業を行うことにより、谷口銀山が繁栄していた当時の様子を探ることを目的とする。

【概要】谷口銀山の歴史に触れ、それを守っている地域の方々の情熱に触れながら、歴史的な地域資源としての保存・活用を共に探る。もしかしたら新たな鉱脈が発見できるかも？！

授業計画

1回目 訪問

平成26年5月24日、25日

- 〈講義〉 谷口銀山の歴史について
谷口銀山坑道内整備
吉次山登山

2回目 訪問

平成26年7月19日、20日

- 谷口銀山探索
吉次山整備作業
保存会との交流会

講師・担当者

谷口銀山史跡保存会 会長 近岡栄一

昨年の受講生の感想

工部部 上野 将輝

谷口銀山保安会元会長の横瀬さんによる講義は、プリントなどを使用した工夫されたもので、非常にためになるものだった。歴史はそばで、糖がこし水かったものの、つゆの方が濃すぎず薄すぎず、おいしく頂きました。元分校を利用した店内はなかなか風情のあるもので、個人的にまた来ようと思った。また一書楼など入城した時は、コウモリの大群にかなりびっくりしました。地元の人による銀山についての歴史の話は過去の人々の苦勞が伝わってきて興味深いものでした。

担当者 金山町教育委員会 沼澤尚史

森と人との共存を考える I ～山間地の歴史を探り地域復興へ～



目的・概要

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人との共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域復興へ・生物多様性から地域復興へ・地域の衣食住の伝承から地域復興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っておりますので、皆さんのお恵と行動力に期待しています。

授業計画

🏠 1 回目の訪問

平成26年6月14日、15日

- 〈講話〉「金山町の自然を知る」
- 〈実習〉 森の祭典
- 〈実習〉 食の体験(山菜)

🏠 2 回目の訪問

平成26年7月19日、20日

- 〈講話〉「有屋峠の歴史に迫る」
- 〈実習〉 登山
- 〈実習〉 伝統芸能に触れる

★ 講師・担当者

遊学の森案内人会 会長 笹原忠昭

❤️ New program

このプログラムは初めて実施されるプログラムです！
熱意あふれる皆さんの受講をお待ちしております！！

担当者 遊学の森案内人会

最上の農業と観光活力に触れよう



目的・概要

最上町は伊聖・松尾芭蕉が歩いた奥の細道や、温泉地があり、世界初の地球両極単独徒歩横断を成功させた冒険家・大場満郎さんをはじめとする、様々な分野で活躍する一流人がたくさんいます。その方々からお話を聞いたり、実際に体験することにより、新たな視野を養う事を目的とします。奥の細道の中でも難所として知られる場所を歩いたり、農業体験等をすることにより仲間意識や気遣う心、協力する心を醸成し素敵なキャンパスライフを送ることが出来るでしょう。
最上町一心同力よりお待ちしております。

授業計画

🏠 1 回目の訪問

平成26年6月14日、15日

- ・奥の細道トレッキング
- ・アスパラガス等農業体験

🏠 2 回目の訪問

平成26年6月21日、22日

- ・奥の細道トレッキング
- ・大場満郎氏との語らい
- ・乗馬体験
- ・農業収穫体験

★ 講師・担当者

「冒険学校」 大場満郎氏
農業体験 齋藤菊雄氏

🗨️ 昨年の受講生の感想

農学部 岡野 達也
大場満郎さんはとても魅力的な人物で、とても引き込まれるものがあった。普段自分は人の長話を聞くのは苦手であるが、満郎さんの話を聞いている間は時間があっという間にすぎってしまった。この四日間のフィールドワークを通して、言葉では表せないほどの最上町の魅力を感じることができた。この経験は一生忘れることはないだろう。四日間を最上町という素晴らしい環境のなか、最高の仲間たちとすごせたことをとても喜ばしく思う。この最上町という素晴らしい場所をもっと多くの人に知ってほしい。そう思った。本当に最高の四日間でした！

担当者 最上町教育委員会



目的・概要

【目的】農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得するとともに荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自身が考案する農村の再生策を提言としてまとめることとする。
 【概要】地域文化と自然資源を活用し、自然環境の保全活動と経済活動の両立を図り、快適かつ生き甲斐のある人生をおくることができる地域「いやしの里」づくり活動を体験し、パートナーシップ(協働)の手法で地域を再生し自然と共生した農村づくりを共に考える活動。

授業計画

1回目 訪問

平成26年5月17日、18日

- ①日目 午前：活動紹介
午後：キノコの植菌体験活動
- ②日目 午前：手倉森・堂ヶ沢地区の保全再生活動
午後： //

2回目 訪問

平成26年5月31日、6月1日

- ①日目 午前：薬師の森保全活動
午後： //
- ②日目 午前：薬師の森保全活動
午後： //

講師・担当者

ブナの実21会員及び農業、林業家などの専門家の皆さん

昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 熊谷 亜子

舟形町の良いところはまぎれな自然である。薬師の森のきれいな水は一度見たら忘れられないし、温泉には絶滅危惧種の植物が生えている。また若手温泉からは見る景色も非常にきれいだ。自然が豊かだからこぼれ出る山菜を使った郷土料理も非常に美味しい。そして、その郷土料理を毎回食べきれないほどに準備してくださる舟形町の方々の人の良さも素晴らしい。とても食わずで賞味には丁寧にあててくださり、それらの会話のいたるところから町おこしに対する強い思いが伝わってきた。

担当者 舟形町教育委員会

地域から元気と力を！
差首鍋廃校活用プロジェクト



目的・概要

平成24年3月に廃校となった旧差首鍋小学校は、差首鍋地区生涯学習センター『まざれや』として出発し2年目を迎えます。このプログラムでは、地域の方々と一緒に地域ならではの魅力や抱えている問題を感じてもらい、そこに学生ならではのアイデアと地域の宝を融合させ、この『まざれや』を活用しながら地域や真室川町が元気になるような生涯学習センター事業プログラムの作成や提言を地域の方々と一緒に行ってまいります。また、訪問中の地域行事「さなぶり」では、もちつきや旬の山菜料理づくりを地域の人たちと行い、食を通して交流も行います。話題の伝承野菜やスイーツが食べられるかも！

授業計画

1回目 訪問

平成26年6月7日、8日

- ・センターを掃除で交流！
- ・山菜料理を作ろう
- ・地域で農業体験
- ・地域の人と「よでな」で交流！

2回目 訪問

平成26年7月12日、13日

- ・地域資源マップ作り
- ・地域に伝わる「伝承文化」を体験
- ・学生によるプログラム・提言発表会

講師・担当者

中村温原を守る会 高橋喜久美 ほか数名

昨年の受講生の感想 工学部 奥野 優樹

前年少し積極性にかけてという反省もあり。積極的に地元の人が、子供たちに話しかけて触れ合った。薪割にも積極的に参加するようになった。薪割はうまく割れて良かった。そして子供たちが力エールを近づけたらいいなって喜んで遊んでもらった良かった。伝承野菜スイーツが勝手に買いたくらいおいしかった。平塚番茶という神事を自分たちのためには見えてくんだり、自分はこういう神事などにも興味がないすごく面白かった。そして、もてなしてくださった町の方々に感謝の気持ちでいっぱいになった。

担当者 真室川町教育委員会教育課 生涯学習・スポーツ担当 新田

真室川町 子ども達の自然体験活動支援講座 1



目的・概要

【目的】神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

【概要】自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けをすることで、自己を磨いていく。

授業計画

1 回目の訪問

平成26年6月7日、8日

企画事業「わんぱく探検隊～春～」
小学3・4年生対象事業の支援
・班付きスタッフ・野外炊飯・テント泊
・火おこし・キャンプファイヤー

2 回目の訪問

平成26年7月12日、13日

企画事業「わんぱく探検隊～夏～」
1回目と同じ児童対象
・班付きスタッフ・野外炊飯・テント泊
・ポートでの川上り・ダイビングなど

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想

大蔵教育 秋山由依子
私は将来小学校教師になることを目指している。そのためたくさんの子と触れ合って将来の夢に繋がりたいと思い、このプログラムに応募した。
自分が思うように事が進まず悩むこともあった。しかし、夜の職員さんの会議で「子ども自身にやらせる」というアドバイスをうけ、2日目に実践してみた。すると子どもたちは進んでなんでもやってくれるようになった。子どもたちはできることが増えていき、一生懸命になっている姿を見て、自分も励まされた。今回は子どもだけではなく私も成長できた。フィールドワークに参加できて本当に良かったと思っている。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事

大蔵村 美しいむら大蔵村の自然・文化・人にふれる



目的・概要

大蔵村の自然と文化を地域の人々と関わりを通して体験し、自然と共存して生きる人々の生活と知恵を学びます。1回目は、村の観光パンフレットづくりの学習を行い、肘折温泉で人力車を引き、観光事業に携わっている方から温泉の歴史や散策しながらの観光学習をしていただきます。また、大蔵村伝統芸能・大蔵村指定文化財の巨木等の文化学習及び日本棚田百選に認定された「四ヶ村の棚田」視察学習、縁結びの神として知られる「地藏倉」へのミニ登山などを行い、地域に根づく伝承・伝統行事を通して、大蔵の自然文化についての体験学習を行います。2回目は、平成23年度文部科学大臣賞を受賞した鈴木征一さんによる「肘折こけし」の「絵付け体験」、収穫されたそば粉で「そば打ち体験」の体験づくしの学習を行い、「大蔵村自然塾」では小学生と一緒に森林学習を行います。また、高齢者の方々による郷土料理教室も開催します。

授業計画

1 回目の訪問

平成26年5月31日、6月1日

・村の観光パンフレットづくり
・人力車体験
・「地藏倉」へのミニ登山

2 回目の訪問

平成26年6月7日、8日

・肘折こけしの絵付け体験
・そば打ち体験
・「大蔵村自然塾」での森林学習

講師・担当者

合海田福踊保存会
肘折こけし工人
大蔵村観光ガイド
大蔵村文化財保護委員
味来組そば打ち指導者
松田与市
鈴木征一
佐藤則夫
熊谷勝保
須藤千代子

昨年の受講生の感想

農学部 永田 匠
山形県の木人の木々は時々なまじりが強く正直さ割はた何を言っているかわからない感じがしました。そこは女嫁とニュアンスで何とかカバーしました。しかし私たちに村する愛憎や歓迎の心はとまよく伝わってきました。料理を作ってくれた方、人力車の重太郎さん、こけし職人の方、大蔵村の歴史マスタナーなどさまざまな人と触れ合うことができました。
私はこの4日間の経験はおそらく一生忘れられない、一生忘れることができない思い出になると思います。ここで学んだ文化や精神、人々の心の温かさを忘れずにこれから山形で学んでいきたいと思っています。

担当者 大蔵村教育委員会 生涯学習係 佐藤利男

鮭川村 鮭川村の伝統芸能鮭川歌舞伎と里山体験



目的・概要

- ① 1回目…鮭川歌舞伎 / 江戸時代より鮭川村で続く地歌舞伎・鮭川歌舞伎の観覧、定期公演の手伝いを通して、地域に根付く伝統文化を感じてもらうとともに、それを後世に受け継いでいくためのアイデアを考えてもらう。
- ② 2回目…鮭川の里山体験 / 鮭川村の里山環境で、環境保全と地域の活動に触れもらい、人口減少が進むなかで集落を維持していくためのアイデアや地域の在り方を考えてもらう。(※2回目の7月は、舞台を米地区にするか木の根坂地区にするか検討中です。)

授業計画

★ 1 回目の訪問

平成26年6月7日、8日

- < 鮭川歌舞伎 >
- ・鮭川歌舞伎について講演
- ・練習風景・本番公演見学
- ・準備、片付け等のお手伝い

★ 2 回目の訪問

平成26年7月12日、13日

- < 里山体験 >
- ・米地区での環境保全活動
- ・木ノ根坂地区でのそば打ち体験

★ 講師・担当者

- < 1回目・鮭川歌舞伎 >
- 鮭川歌舞伎保存会 佐藤成一氏、高橋眞一氏
- < 2回目・里山体験 >
- 米地区 矢口末吉氏、阿部清氏
- 木ノ根坂地区 井上クニ子氏、小嶋邦彦氏

♥ New program

このプログラムは初めて実施されるプログラムです！
熱意あふれる皆さんの学識をお待ちしております！！

担当者 鮭川村教育委員会 社会教育指導員 横山 謙

戸沢村

戸沢村の超元気印！ 幸齢者集団の生き様に学ぶ



目的・概要

- 1回目は、幸齢者のみなさんと古代米の田植えやメダカ池の環境整備をし、2回目はほたる祭りと炭焼き等を行います。特にほたる祭りについては、企画運営を担っていただきます。これらのプログラムを通して、学生のみなさんには、コミュニケーション能力や企画力、プレゼン能力、協調性等を育む一助となればと思います。地域においては、この事業を実施する上で、地域のいろんな団体、人の協力や知恵が必要となることから、地域の活性化やコミュニティの再生が図られると思われれます。

授業計画

★ 1 回目の訪問

平成26年5月31日、6月1日

- 座学(古口の歴史、地域活動等)
- 農業体験(古代米の田植)
- めだか保護池等の整備
- ほたる祭り企画会議

★ 2 回目の訪問

平成26年6月28日、29日

- ほたる祭り(発表)
- 農業体験(田の草取り)
- 食育(鶏の解体)
- わら細工

★ 講師・担当者

- 北の妙創郷大学 学長 菊地清一
- 乙夜塾 塾長 門脇憲一
- 古口自治会 会長 門脇信一
- 北の妙創郷大学 講師 芳賀欣一

🗨️ 昨年の受講生の感想

工部 平井 裕士

何よりも無事にほたる祭りが終わったことが嬉しい。素直に嬉しいです。僕は企画に関して何かたいそうなアイデアも出ることができません。皆さんもお分かりの通り、ほとんど難力になりませんでした。朝早起きして話し合いに参加するのまつらかったです。しかしこの戸沢村のフィールドワークのメンバーの一員としてほたる祭りに関わることが正解だったと思います。子供たちが楽しい、地域の方が楽しい、運営する側も笑顔になれる。ほたる祭りの情景を思い出さずだけでも幸せな気分になれそうです。

担当者 北の妙創郷大学 事務局 佐藤雄次



目的・概要

手植えによる田植えや、田んぼの草取りなど機械や農業に頼らない昔ながらの米作りを通して、日本人の主食である米について考える機会をもつ。また、農業の楽しさや苦勞を学び食に対する感謝の気持ちを養うことを目的とする。1回目は、モチ苗を手で植える「田植え体験」を行う。山菜採り及びそれを使った弁当作り、ひめさゆりの植生地「浄の滝」へのハイキングなどを行う。2回目は田んぼの除草作業「田の草取り」、里山に生える新世とモチ米を使った「笹巻き作り」、稲わらを使った「わらじ作り」を行う。

授業計画

🏠 1 回目の訪問

平成26年5月31日、6月1日

そば打ち体験、田植え体験、里山散策（山菜採り）、山菜を使った弁当作り、浄の滝ハイキング、残雪を活用したデザート作り

🏠 2 回目の訪問

平成26年6月28日、29日

田んぼの草取り、笹採り、笹巻きづくり、わらじ作り

★ 講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局他、角川のインストラクターのみなさん

🗨️ 昨年の受講生の感想

戸沢村での2回のフィールドワーク授業を通して、多くの経験をして本当にたくさん学ぶことが出来た。事前学習では、人口減少が著しく、少子高齢化が進み、活気のない村だとばかり思っていた。しかし、戸沢村のみなさんは私たちを家族のようにおなごかく迎え入れてくれた。そして、田植えや草取り、わらじ作りや笹巻き作り、そば打ちなどの様々な体験を通して昔の人々の苦勞や戸沢村の良き、普段の生活ではなかなか味わうことのできない貴重な経験をさせてくれた。これらの体験のほとんどが私にとって初めてで、このプログラムを通じて本当にたくさん知識を得ることが出来た。

📍 担当者 田舎体験塾つのかわの里



目的・概要

当地域で栽培されている夏から秋にかけて採れる野菜づくりに挑戦する。野菜の持つ栄養価はもちろん、滋養効果と郷土料理に隠れた暮らしの文化を学ぶ。1回目は、畑づくりや苗の定植体験する。また、周辺で栽培されている様々な野菜栽培の状況を見学する。2回目は、収穫した野菜を伝統料理にして味わう体験やソバの種蒔き・ソバ打ちを体験する。また、1回目で植え付けした野菜の整枝や側枝の誘引作業を行う。

授業計画

🏠 1 回目の訪問

平成26年6月14日、15日

畑づくり、野菜苗の定植、野菜畑の見学

🏠 2 回目の訪問

平成26年7月26日、27日

そば打ち体験、ソバの種蒔き、野菜の整枝・誘引、野菜の収穫、伝統料理づくり

★ 講師・担当者

田舎体験塾つのかわの里事務局他、角川のインストラクターのみなさん

🗨️ 昨年の受講生の感想

プログラムを通して、戸沢村の豊かな自然、人の温かみを感じる事ができた。私は東京出身であるため、通勤ラッシュや人混みにイライラしている人々や高層ビルに囲まれた緑の少ない土地で生活を送っていた。そのため、山形県に某年に戸沢村のような自然に満ち溢れ、人の温かみが残る農村訪問ができたことは、私にとって非常に貴重な体験となった。今回のフィールドワークは天候に恵まれず、プログラムを楽しまず活動することが多かった。しかし、戸沢村の人々の迅速な対応のおかげで充実した活動を行うことができた。私たちの活動を支え、温かく迎え入れてくださった村の人々に感謝したい。

📍 担当者 田舎体験塾つのかわの里



後期



新庄市

まちの図書館を舞台にイベントプロデュース
～図書館まつりをジャック！？する～



目的・概要

新庄市立図書館のメイン行事として、毎年秋に開催される市民協働事業「図書館まつり」。この「図書館まつり」を舞台に、ボランティアの方々と交流を図りながら、イベントの企画から運営まで、スタッフとして体験してもらい、読み聞かせ・紙芝居体験発表をはじめ、図書館探検隊ガイドなど、他のスタッフが担当するブースの体験や、山大ブースを開設し、イベントをプロデュースするなど、自ら計画立案し参加してもらう。特に、若い世代に読書の魅力や図書館をPRできるような企画を掘り起こしてもらいたい。魅力あるまちづくりを目指し、図書館から地域に新しい風を吹き込む学生のパワーをぜひ期待しています！



1 回目の訪問

平成26年10月25日、2日

- 1 図書館ガイドツアー読み聞かせ・紙芝居講座体験→『本のリサイクルフェア青空市』ブース準備
- 2 『本のリサイクルフェア青空市』スタッフ業務→図書館まつり計画立案

2 回目の訪問

平成26年11月1日、2日

- 1 図書館まつりブース準備、講演会参加、お話し会リハーサル
- 2 図書館まつりスタッフ業務→感想交流

★講師・担当者

新庄市立図書館 館長 高橋一枝
図書館ボランティアサークル かやのみ会
会長 須藤敏枝

昨年の受講生の感想

医学部 柴田 涼

今回参加したフィールドワークでは、私の予想以上に多くの経験を積むことができ、非常に充実した四日間であった。

四日間のプログラムは、おどろくや成功したと思う。図書館祭りに向けての準備、本番での読み聞かせやブースの運営。初めてのことがばかりで大変ではあったが、新庄市の人々との交流は良いものであった。職員にも恵まれ、私たち自身も非常に楽しんでこの四日間を活動することが出来た。



担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」



目的・概要

「ごまかしのない食品」に対する理解を深め、実際の食品製造を体験する。安全安心な食品づくりに関する著書を多数執筆する磯部晶策氏が語る、消費者の立場から食品を見分ける4条件、生産者視点から食品を見分ける4原則などを、講義及び実技を通して学んでいく。

授業計画

1回目の訪問

平成26年10月25日、26日

- 1日目 講義：加工食品の変遷（大量生産へ）→甘味処「悠豆里庵」の品々の実演・実習→餅の製造工程見学
- 2日目 講義：原材料・表示・添加物の表と裏→こし餡づくり（ごまかしのない食品）

2回目の訪問

平成26年11月8日、9日

- 1日目 講義：食品に関する情報→甘味物実習→餡づくり②
- 2日目 講義：輸入食品の品質・表示→実習：自分で作る甘味物→振り返り（自分の食生活・消費生活）

講師・担当者

(有)佐藤製菓所 代表取締役 佐藤勝也
甘味所「悠豆里庵」 店主 佐藤和美

昨年の受講生の感想

人文学部 安藤 雅淳

私はこの、体験「ごまかしのない食品づくりに挑戦！」に参加することができてよかったです。一日目の講義では、コンビニやスーパーの弁当、おにぎりはダメだ、カット野菜や成型肉も危険などと言われ、それじゃ何も食べられないじゃん、と思っていました。しかし講義を聞いていくにつれて私たちは食品添加物とうまく付き合っていくことが必要なんだな、と思いました。私ができることはとても小さなことですが、このプログラムで学んだことを自らの食生活に生かし、そして友達、家族に広めていきたいです。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

新庄市 七所明神伝説と地域活動のあり方を探る



目的・概要

七所明神は、十六代天皇の皇子である大山守皇子の体を七つに斬り、それぞれの部位が祀られているという由来のある神社である。新庄市を中心に七ヶ所の七所明神があるが、その一つが新庄市宮内地区にある。宮内地区には皇子の頭の部位が祀られているという。そういった七所明神の伝説に触れ、学んでもらい、そして、御祭燈祭や伝統工芸の制作などを通して、新庄市宮内地区における地域活動のあり方を探ってもらう。

授業計画

1回目の訪問

平成26年10月25日、26日

- 1日目 七所明神について講話→七所明神巡り
- 2日目 置刈作業→芋煮→絵馬製作

2回目の訪問

平成27年1月10日、11日

- 1日目 御祭燈祭準備→もちつき体験→御祭燈祭
- 2日目 御祭燈祭後片付け→伝統工芸（はげご）製作→活動に対するの感想と提言

講師・担当者

七所明神の環境を良くする会

昨年の受講生の感想

地域教育 宮嶋 莉子

今回のプログラムで特に印象に残ったのはやはり、七所明神伝説と御祭燈祭です。御祭燈祭では、地元のお年寄りがから子とちまちまで幅広く担うことができました。特に挨拶は最初から最後まで鬼顔してまをかけるよう頑張りました。宮内は比較的新しくできた地区だと聞いていたのですが、想像していたよりもたくさんの方が来ていたので、この神社が愛されていると感じました。

担当者 新庄市教育委員会 社会教育課

金山町 山間地の文化を掘り起こそう！



目的・概要

高度成長期の競争社会で、山間地の生活文化から滲み出ていた、人と人をつないでいた「結(ゆい)」や「講(こう)」が無くなりつつあります。今、その切れそうになった糸を、もう一度一本一本つなぎ直して、今後、どんなことがあっても切れないようにしていきたいと思っています。そのため、7年前から、地域総合文化祭「さわやか祭」と子どもが主役の「なし団子まつり」を開催し、地域住民のつながる地域社会を目指して活動しています。当地区の二大イベントに参加され、皆さんの新鮮な感覚でこのお祭を盛り上げていただき、新たな地域文化を創造していきたいと思っています。皆さんのお知恵と行動力に期待しています。宿泊は、もちろんホームステイでお持ちしています。

授業計画

🏠 1回目の訪問

平成26年10月25日、26日

- 〈講和〉 「さわやか祭」について
世代交流
- 〈実習〉 さわやか祭の準備
- 〈実習〉 さわやか祭への参画
- 〈実習〉 郷土料理レシピ集の作成

🏠 2回目の訪問

平成26年12月6日、7日

- 〈講和〉 伝統行事「なし団子まつり」
- 〈実習〉 なし団子まつりの飾りづくり
冬支度
- 〈討議〉 「地域文化活動の創造に向けた提言」

★ 講師・担当者

道草ぶんこう運営委員会
委員長 遠藤長三郎

🗨️ 昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 張 凱

フィールドワーク参加できてよかったです。金山町で二回のプログラムを通して多くの貴重な体験をさせていただきました。金山町の人たちの「町を大切に思っている」、「町に元気を感じたい」という熱い気持ちを深く感じさせられました。

そして、ホームステイでお世話になった須藤さんには家族のみなが優しくしてくれました。二回目の時、須藤さんの家に着いた時、奥さんが「お帰りと」言っていました。

📌 担当者 道草ぶんこう運営委員会

金山町 森と人の共存を考えるⅡ ～山間地の文化を探り地域振興へ～



目的・概要

遊学の森は、金山町有屋地内であり、森と人の共生をテーマに、地域活用資源の掘り起こしから地域振興へ・生物多様性から地域振興へ・地域の衣食住の伝承から地域振興への3本柱で地域貢献に取り組んでおりますが、地元住民が当たり前という認識であり、地域住民の醸成にうまくつながっておりません。そこで、学生の新鮮な感覚で地域を捉え宝物が集積されれば地域活性化の一助につながると考えております。そこで、当会では、地域と連携をとりながら、学生の皆さんと交流する機会を設定し、新たな地域文化を創造していきたいと思っていますので、皆さんのお知恵と行動力に期待しています。

授業計画

🏠 1回目の訪問

平成26年12月6日、7日

- 〈講和〉 「金山町の自然を知る」
- 〈実習〉 荒廃した森林で蕨取りリースづくりを楽しむ
- 〈実習〉 伝統芸能「柳原番楽」の見学

🏠 2回目の訪問

平成27年1月10日、11日

- 〈講和〉 「金山町の歴史民俗」
- 〈実習〉 里山の食文化「たら靴、納豆づくり」など
- 〈実習〉 有屋少年番楽の見学

★ 講師・担当者

遊学の森案内人会 会長 笹原忠昭

🗨️ 昨年の受講生の感想 地域教育文化学部 古山 湊

私が、このフィールドワークを通じて、一番感じたものは、金山町及び森上地域の人々の心の温かさとおもしろい精神だった。全ての活動において、円滑に進むようサポートしてくださったのは、遊学の森の『森の案内人』の方々であった。この方々は、遊学の森で行われるイベントのサポートをするボランティアである。ハケゴの編み方が分からないときは丁寧に教えて下さったり、リース作りではいい作品ができるようにアドバイスや、ひと手間加えた知恵を数えて下さったりと、どれだけ感謝したらいいのかわからないほど助けていただいた。森の案内人の方のおかげで、私自身、全身でそして全力で自然を楽しむことができました。

📌 担当者 遊学の森案内人会



目的・概要
最上町は地域おこし協力隊制度をいち早く取り入れ、様々な分野で活躍していたでいております。地域づくりの第一線で活躍されている協力隊の方々や地域の人々と交流することにより、最上町の町づくりの成果と課題を一緒に解決していきましょう。また、世界的な冒険家・大場満郎さんから様々な事を学びます。

1 回目の訪問
平成26年10月25日、26日

- ・奥の細道トレッキング
- ・東法田地区等との交流会

2 回目の訪問
平成26年11月1日、2日

- ・わらじ作り
- ・大場満郎冒険学校での体験活動

★講師・担当者

東法田地区のみなさん
わらじの会 岸 亨さん
最上町域おこし協力隊
大場満郎さん

● 昨年の受講生の感想 人文学部 阿部 智江

私がこの「フィールドワーク—共生の森ものがみ」に参加しようと思ったのは、「大学進学で折角山形に来たのだから、山形ならではの自然や伝統文化を体験してみたい」という考えからであった。1回目の活動では、公園保全活動・そば打ち・オオカウラ遊歩道整備・川一ス作り・奥の細道トレッキング（原前の間～封人の家）を体験した。地域の方々のおもてなしやおたがひに触れてとても感動したし、山に登る部活動をしていて自然に触れることが多いながら、こういった保全活動や遊歩道整備に関わったことがほとんど無かったので、これらの活動に携わることができ自分にとって有意義だったと思う。

担当者 最上町教育委員会



目的・概要
【目的】農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得するとともに荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自身が考案する農村の再生策を提言としてまとめること目的とする。
【概要】地域文化と自然資源を活用し、自然環境の保全活動と経済活動の両立を図り、快適かつ生き甲斐のある人生をおくることのできる地域「いやしの里」づくり活動を体験し、パートナーシップ(協働)の手法で地域を再生し自然と共生した農村づくりを共に考える活動。

1 回目の訪問
平成26年10月25日、26日

- 1 日目 午前：活動紹介
午後：里地里山の恵み収穫体験活動

- 2 日目 午前：里地里山の恵み収穫体験活動
午後： //

2 回目の訪問
平成26年11月22日、23日

- 1 日目 午前：里地里山の恵み収穫体験活動
午後： //

- 2 日目 午前：里地里山の恵み収穫体験活動
午後： //

★講師・担当者

ブナの吏21会員及び農業、
林業家などの専門家の皆さん

● 昨年の受講生の感想 人文学部 楊 雪

今回のフィールドワークに参加することができて、本当に良かったと思う。フィールドワークに参加することによって、日本の風土や人情について、より詳しく知ることができ、日本人の学生と地元の人々ともたくさん交流することができた。

舟形祭へ見学に行くことや、芋蒸づくりの手伝いや、ブナの葉で治まることなど、どちらも私にとって、とても貴重な経験になった。

担当者 舟形町教育委員会



目的・概要

【目的】神室少年自然の家企画事業への参加を通して、地域の自然、人々、子ども達と触れ合い、豊かな感性と社会性を磨く。

【概要】自然体験を通して、自然の素晴らしさに触れ、自分を見つめ直すきっかけづくりとする。また、企画事業に実際に携わり、さまざまな活動を通して子どもが変容、成長する手助けをすることで、自己を磨いていく。

1 回目の訪問

平成26年12月6日、7日

授業計画

企画事業「すぐeキャンプ②」
3・4年生対象 1泊2日のキャンプ
・館内ピバーク・しめ飾り作り・郷土料理作り・ミニハイキング・カムリンピックなど

2 回目の訪問

平成27年1月10日、11日

企画事業「めんごキャンプ②」
園児・低学年児童及び保護者対象
1泊2日のキャンプ
・班付きスタッフ・野外炊飯・テント泊・雪遊び など

講師・担当者

山形県神室少年自然の家 職員

昨年の受講生の感想 地域教育 文化学部 安部加奈子

私たちは今回、子どもたちの自然体験活動のまわりという形で、2回に渡って子どもたちと共に活動してきました。その中で私は、子どもたちの成長を様々な面から間近で感じることができたと共に、多くのことを学び、自分たちも成長できたと感じている。特に、2回目の神室キッズクラブに、班付きスタッフとして子どもたちと2日間活動した際が。まず、一番最初の出会いの裏では、みんな緊張しており中々周りと溶け込めていなかった。しかし、それでも仲良くなろうという気持ちで、何度も話しかけたり、活動を共にしていくうちに、少しずつ心を開いてくれ、周りの子どもたちとも溶け込めるようになっていった。自分が心を開くことで、子どもたちも心を開いてくれるようになることを学んだ。

担当者 山形県神室少年自然の家 研修主事



目的・概要

戸沢村角川地域のこれまでの歴史・文化・暮らし・経済の成り立ちを聞き、農山村で生きる人々の知恵や技術、農山村が果たしている役割を学ぶ。火起こしや飯ごう炊飯、薪ストーブの焚き方などをみんなで協力し、そして楽しみながら生きる知恵や技術を同時に学ぶ。里地・里山の生態系とまたぎの知恵と技術の関わりについて学ぶ。1回目は紅葉時期の「修験の道探訪」や野外での芋煮作りを行う。2回目は、身近にあるものを使っての「ものづくり」、またぎ猟を通して命について学ぶ。

1 回目の訪問

平成26年11月1日、2日

授業計画

修験の道探訪、野外での芋煮づくり、飯ごう炊飯

2 回目の訪問

平成26年11月22日、23日

またぎの話、カモ猟の見学、カモの解体作業、もの作り、もちつき

講師・担当者

田舎体験塾つかわの里事務局スタッフ & 角川地区のインストラクターの方々

昨年の受講生の感想 地域教育 文化学部 斎藤 佑香

このフィールドワークで、私は初めて戸沢村を訪れた。14日間の戸沢村での活動を通して、村の魅力を数多く見つけることができた。その魅力は、実際に戸沢村を訪れないと発見できないようなものも多かった。特に、カモの解体作業が強く印象に残った。羽毛を抜く段階から、すでに躊躇してしまっただけで、私は、このように解体された動物の肉を、おいしく食べているのだと考えると、心にささる思いがあった。また、この解体作業を仕事として行っている方々は数多く存在する。その方々のおかげで、私たちはおいしく肉を食べることができると、感謝の心を忘れずにしていきたい。

担当者 田舎体験塾つかわの里

戸沢村 冬の里山体験&創作太鼓



目的・概要

昔から、ご飯の御供として重宝されてきた漬け物を自分たちで作り、野菜の保存の仕方の一例を学ぶ。今回は、角川地区の伝統野菜である角川カブを使ったカブ漬けや、白菜・青菜の浅漬け、やたら漬けを学ぶ。また、角川地区の郷土芸能の一つである「角川太鼓」を体験し、簡単な曲の一つマスターしてもらおう。そして、マスターした曲は、2月下旬角川地区で催される地域の伝統芸能の発表会である「稽古場公演」で発表していただく。

授業計画

1 回目の訪問

平成26年12月20日、21日

漬け物づくり、角川太鼓活動紹介、
角川太鼓演奏体験、もの作り

2 回目の訪問

平成27年1月10日、11日

そば打ち体験、かまくらづくり、かまくら暮らし体験、御祭燈、太鼓演奏体験、カンジキハイキング

講師・担当者

角川のインストラクターの方々
角川太鼓の方々

♥ New program

このプログラムは初めて実施されるプログラムです！
熱意あふれる皆さんの受講をお待ちしております！！

担当者 田舎体験塾つのかわの里



F i e l d w o r k

H a n d B o o k

M O G A M I 

●エリアキャンパスもがみ 大学事務局

山形大学 小白川キャンパス事務部 教務課教育企画担当

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

TEL:023-628-4707

FAX:023-628-4720

E-Mail:acmogami@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●エリアキャンパスもがみ 最上事務局

〒996-0079 新庄市千門町17-26 最上広域教育研究センター内

TEL&FAX:0233-22-1057

●フィールドワークホームページ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。